

治験用のステントを製造する岡山研究所のクリーンルーム

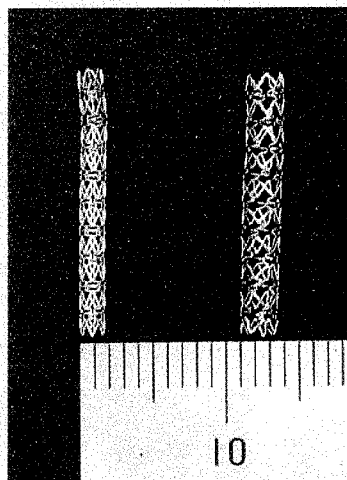
福山市民病院(福山)器病センター(大阪府市蔵王町)、国立循環(吹田市)など全国7病

12年の販売目指す

医療系ベンチャーの日本ステントテクノロジー(岡山市北区芳賀)は8月から、血管拡張に使う医療器具ステントの国内

日本ステントテクノロジー

での臨床試験(治験)を始める。厚生労働省の製造販売承認が得られれば、2012年中の国内販売を目指す。



日本ステントテクノロジーのステント(左が拡張前、右が拡張後)

医療器具・ステント

来月国内治験スタート

スーム ステント
微細な網目状に加工した金属パイプ。心筋梗塞などの治療でカテーテル(細い管)の先に取り付け、血管に挿入する。パイプ内の風船を膨らませて狭くなった血管を広げ、血流を改善する。日本ステントテクノロジーの製品は、拡張後の直径が2.5〜4.0ミ、長さ8〜30ミ。治療効果を高めるため、表面に薬剤を塗るタイプもあり、同社は塗った製品の臨床試験の準備を進めている。

院で来春まで、心筋梗塞の患者約100人に治験を実施。効果や安全性を確認した上で厚労省に製造販売承認を申請する。
治験用のステントは、岡山リサーチパーク内に5月に開設した岡山研究所(岡山市北区芳賀)で製造する。
クリーンルームの整備費など治験にかかる費用4億5千万円のうち、3億円は新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の補助金で賄う。
国内で使われているステントの9割以上は米国などの海外製品。同社のステントは厚さが0.07ミ、他社製より約3割薄いのが特長。網目の加工形状を

国内でのステント需要は年間1千億円規模とされ、山下修蔵社長は「日本市場への参入は起業した時からの最大の目標だった。国内で承認を取り、事業を軌道に乗せたい」と話している。

工夫し、血管を支える高い強度と、血管の形にフィットする柔軟性を兼ね備えているという。
ドイツでは1月から販売を始めているが、医療制度の違いで価格が安く、利益が出にくいため、販売数は累計で100個程度にとどまっている。
国内でのステント需要は年間1千億円規模とされ、山下修蔵社長は「日本市場への参入は起業した時からの最大の目標だった。国内で承認を取り、事業を軌道に乗せたい」と話している。

同社は03年設立。同年に開所した岡山県の創業支援施設・岡山インキュベーションセンターに設立時から入居している。資本金1億2500万円。売上高3500万円(10年3月期)。従業員30人。(長田憲司)